

第32回リハ工学カンファレンス in 神戸

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

1. はじめに

皆さまこんにちは。今回私は第32回リハ工学カンファレンス in 神戸(以下、カンファレンス)に実行委員として参加させていただきました。いつもは、参加する立場ですが、実行委員として運営に携わらせていただき、違った目線で今回のリハ工学カンファレンスを観てきました。

2. 概要

日付：2017年8月23日、24日、25日

場所：神戸国際会議場

リハ工学カンファレンスの参加者(介助者等の無料参加を含む)339名、i-CREATE2017とあわせたイベント全体として、600名近い参加がありました。

日本リハビリテーション工学協会とは

障害を有する人々に対し、その生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させるため、この目的に賛同する個人および団体によって構成されています。(ホームページより抜粋)

3. 実行委員として

2012年のアクロス福岡で行なわれた、リハ工学カンファレンスに初めて参加して以来、ほぼ毎年足を運んでいました。今回は実行委員としての参加となり、沢山のことが学べる機会、そして参加される方々に有意義な時間を過ごしていただくために、実行委員会に参加していました。片道2時間かけて兵庫県立リハビリテーションセンター(以下、リハセンター)で行われる会議に、毎回参加していたのですが、時には帰宅時間が、24時を回ることもありました。そして翌日も通院のために、リハセンターに行く時もありました。

参加するだけでも大変でしたが、目的は実行委員会です。カンファレンスを成功させるために、会議を重ねていきました。

4. カンファレンス当日

私は福祉機器展示ホールのスタッフ、そして開会式の司会が主な役割でした。

私はスタッフだったので、全体を通して多くの発表は聴けなかったのですが、当事者セッションで様々な意見や時代背景を知ることが出来て、面白かったです。

最終日「レジェンドに聞け」という企画で、大先輩頸損者のT氏は、やっぱり凄いと話を聴いて思いました。制度や環境が整っていない時代、外出や余暇活動をするT氏を目の当たりにして、感心するばかりでした。私たち今の時代は、恵まれていると感じた次第です。重たい電動車椅子を担いでもらってまで階段を登り、外出する勇気は凄いと感心しました。障害者に対して、世間はまだまだ理解に乏しい時代の中、たくましく生きてこられた経緯を知り、時代背景と、それからの時代の流れを感じる企画でした。

5. さいごに

今回のカンファレンスでは、沢山の方々と繋がることが出来ました。今思えば、初めてカンファレンスに参加した、2012年の福岡がとても懐かしく感じます。知り合いも誰もいない、リハ工がどういったものかも分からずに、とにかく言われるがまま参加していました。あれから5年、盛岡、広島、沖縄と参加して今回は実行委員としての参加出来たことを、感慨深く思いました。

新たに繋がった方も含めて、こんなに知り合いの方が多かったかなと、3日間を振り返りました。これまで、様々な方に関わらせていただき、人との繋がりはなにもものにも変え難い。

私はまだ教わることの方が多のですが、これからのリハ工学カンファレンス、沢山の方々が繋がりを、そして工学的技術支援の発展を願い、来年の神奈川開催に想いを寄せたいと思います。